

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 北九州市 】

| | |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ | 【Ⅲ】 |
| 2 実施対象者 | 南丘小学校 3学年 1、2クラス 37名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) |
| 4 目標 (ねらい) | ・障害をもって生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。(特に、日頃の生活で困ることや助けてもらっていることについて話をさせていただき、誰もがくらしやすい街にするために自分たちにできることがないかかんがえていこうとする心情を養う。) |
| 5 取組内容 | <p>○事前学習として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの設備や道具について調べ、分かったことをまとめ、発表した。 ・車いす体験などを通して、障害のある方が生活していく上で、どのような問題があるかを知り、自分たちにできることを考える。 <p>○ブラインドサッカー体験をするにあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は、ブラインドサッカーという競技自体、知らないスポーツだったので「スポ育キッズ(Web)」から動画を見せた。そこから、ブラインドサッカー元日本代表の山口修一さんへ尋ねてみたいことや、知りたいことを整理し(生活・ブラインドサッカーについて)、学習課題を考えた。 <p>○ブラインドサッカー体験当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドサッカー体験や山口修一さんからお話を聞く活動をとおして、障害をおもちの方の気持ちを考えた。 <p>～流れ～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介(山口修一さん) ②日常生活についてのお話(携帯電話の使い方、白杖についてなど)。 ③実際にブラインドサッカーを見る。 ④アイマスクをして、簡単なレクリエーション(準備体操、アイマス |



車いすに乗る様子



認知症についての劇の様子



山口修一さん



レクリエーション

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>クをしている人を目的地まで連れて行く、グループ作り)</p> <p>⑤ブラインドサッカーの体験。(ボールをキャッチ、キック)</p> <p>⑥山口修一さんへ質問タイム。</p> <p>⑦振り返り(感想文と、ビデオを通して)</p> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでに学習してきたことを B4一枚の紙に、絵と文で書いた。 • 学習課題であった「自分たちにできることは何か」を発表し合った。 <div data-bbox="464 618 975 887" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>アイマスクをすると、目の前は真っ暗で不安な気持ちになりました。山口さんは、目が見えなくてもブラインドサッカーというスポーツを見つけて毎日を楽しくすごしているので、かっこいいなと思いました。(略)</p> </div> <div data-bbox="1098 125 1358 315" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1123 304 1334 353" data-label="Caption"> <p>ボールキック</p> </div> <div data-bbox="991 383 1358 869" data-label="Image"> </div> |
| <p>6 主な成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 以前まで障害をおもちの方に対して「かわいそう」という気持ちだけが子どもの心にあったようだ。しかし、障害に適応した道具を使い、周りの人の協力を得ることで、生活を楽しんでいること(運動したり会話をしたりするなど)がわかった。 • 自分たちにも何かできることがないか考え、実践しようとする意欲が高まった。また、障害をおもちの人だけが特別ではなく、隣にいる友達や家族にも「困っていたら助けていきたい」と感じるようになった。 |
| <p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • ブラインドサッカーの実践にあたって、「スポ育キッズ(Web)」動画を見せた。そのことによって、ブラインドサッカーのルール、用具や試合の様子などについて知らせることができた。 • 質問したいことを学級全体で確認した。 • 事後、目の不自由な方のビデオを観せ、体験したことや、学習したこと振り返りを行った。 |
| <p>8主な課題等</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 目の不自由な人の体験は危険を伴うので、事前に安全面の指導を行うことが大切である。 • 障害をおもちの方の補助の仕方についても、児童にもっと意識させる。 |
| <p>9来年度以降の実施予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 来年もぜひ、お願いしたいと考えています。 |